

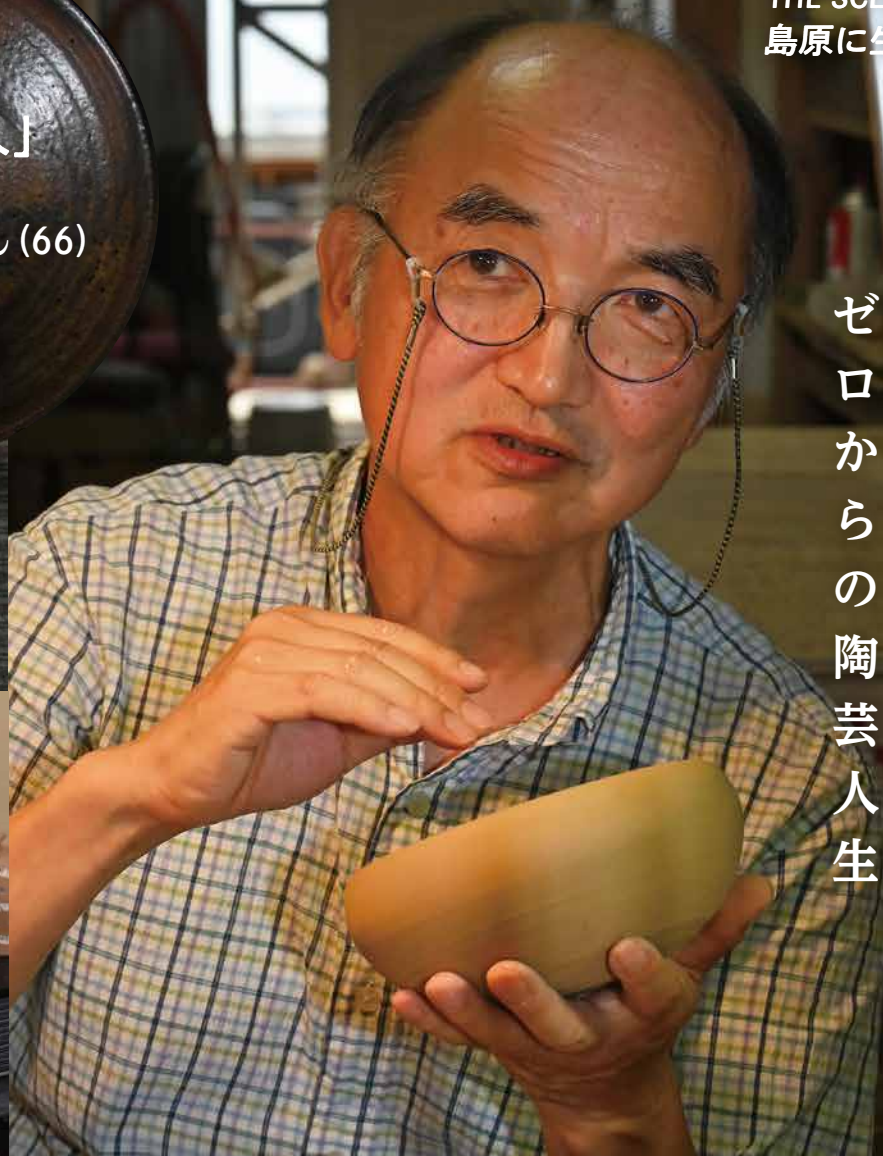
「人生の達人」

くわとり けいじろう

桑取 敬二郎さん(66)

土と向き合う

ゼロからの陶芸人生



本物そっくり！陶器の鏡餅「一生長餅」

独学で始めた陶芸の道

木々に囲まれた高台にひっそりと佇む、島原焼窯元、陶房「草まくら」。ギャラリーには温かさを感じる皿や器、遊び心あふれる素材でかわいいう干支飾りなど様々な焼き物が出迎えてくれます。ここで約40年、土と向き合い、作陶を続けているのは桑取敬二郎さんです。

幼い頃から物作りや絵を描くことが大好きだったという桑取さん。将来は工業デザイナーを目指し、大学は九州芸術工科大学（現在の九州大学芸術工学部）に進みますが、徐々に純粋美術の分野に関心が移っていき、大学院では美術工芸史を学びます。そこで九州の窯元を巡る機会があり、「こういうことをして一生暮らすことができたら、どんなに人生楽しいだろうか。」と、思ったのが陶芸を始めるきっかけとなりました。

大学院を卒業すると、島原に帰郷し、実家の小屋で作陶を始めます。「陶芸の経験はなかったの」で、全て独学でした。材料となる土探しから全くのゼロからのスタートで、釉薬の調査も実際に焼いてみないとどういう発色になるのかわかりません。失敗や経験を積み重ねながら知識と技術を身に付けていきました。」と、当時の苦労を振り返ります。